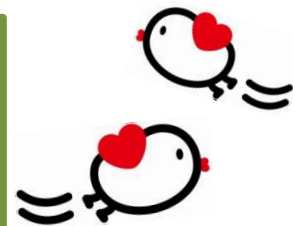




平成29年7月10日（月）から7月28日（金）まで
第68回生（2年生）が
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）を実施しました。



その1 準備編

♥実習を実りあるものにするために、約2ヶ月前から準備をすすめて実習に臨みます。

①知識の確認：患者さんの個別性に応じた看護をするために、「看護過程の展開」という方法を学びます。そしてペーパーパシエント（紙に情報が書かれている模擬の患者さん）で学びを確認します。その時には、患者さんの疾患と治療、その臓器の解剖生理の理解が欠かせません。併せて復習をします。

②技術の練習と確認：ペーパーパシエントの看護過程の展開の結果立案した「看護計画」の一部分を実習室で、ロールプレイングを用いて演習します。先生に確認を受けたのち、難しかったところ等何度も練習して、実習に備えます。

③実習での心構えや病院の様子などについてオリエンテーションを何度か受けた後、病棟の看護師長や実習指導者に実習前に挨拶に伺います。



その2 実施編

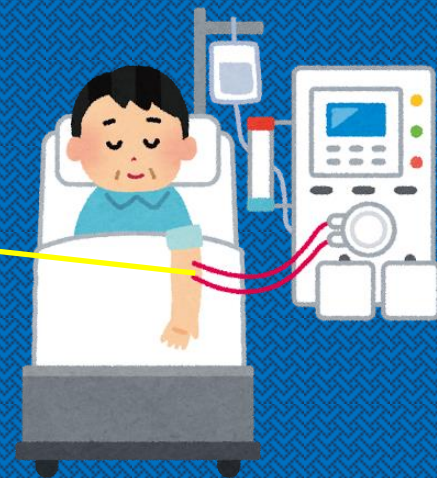
♥患者さんとの信頼関係を築きながら、患者さんのために、看護計画を考えます。計画を実施する前には、必ず担当の看護師に相談・確認していただき、一緒に実施します。

「△号室□番ベッドの〇〇様へ配膳します」
何重にも確認して、間違えないように配膳します。

【患者さんへ】
「(つたない)ケアを受けて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。」

【看護師さんへ】
「的確なアドバイスをいただき、恵まれた環境で学習できることに感謝しています。」

「△△さん、シャントを確認させてください。」
血液透析を受けている患者さんにとって、大切なシャント音やスリルの確認ができるようになりました。もちろんバイタルサインは正確に計測できるようになりました。



「××さん、これからお食事です。」
口から食事が食べられないため、鼻から胃まで管を入れて、栄養補給をする患者さんの、栄養剤の接続を経験しました。

「〇号室△番ベッドの□□様の足浴をします。準備が終わったら確認していただき、実施の見守りをお願いします。」
最初の数回は、看護師の見守りのもとでいろいろな療養生活上必要なケアを計画に基づいて、させて頂きます。
安全に適切に実施できるようになると一人で責任をもってさせて頂くケアもあります。



その3 まとめ編

♥基礎看護学実習は、今後の実習に必要な基本的な知識や技術はもちろん職業人としての態度を養う実習です。臨地で学んだことを実習グループやクラス全体で共有して、学びを深めます。

【日々の振り返り】

毎日、実習グループごとに、病棟での実習を終えて学校に戻って、学生が主体で、振り返りを行います。

※IPU教育経営学科看護教育専攻の片山先生が参加してくださいました。



【全体まとめの会】

「臨床では、患者さんの状態が日々変化します。事前にケアの方法を考えておくことも重要ですが、その日の朝、環境整備やバイタルサインを測りに行った時の患者さんの反応で、臨機応変に方法を変更する柔軟性を持つことが必要です。また、疾患や個別性を理解した上で行うべき看護は何なのか考えることは難しかったです。

これから先、受け持つことになる患者さんに、よりよい看護を提供できるよう日々の勉強に取り組んでいきたいです。」



【医療安全まとめの会】

「化学療法を受けており、床上排泄の患者さんの尿量を測定する際に、尿器スタンドごと素手で処理室に持って行った。看護師に声をかけられ、インシデントに気が付いた。」
「スタンダードプリコーションが実施できておらず、感染予防についてしっかり復習を必ず行います。また、自分にできることだったので、うれしくてつい手が出てしまったが、実習では常に危険予知に努めて行動します。」

実践は10日間でしたが、学習を共有し、深めていく事で、実りの多い実習となりました。これもひとえに、臨地におられる皆様のお蔭です。ありがとうございました。

【看護倫理まとめの会】

「患者さんの転倒転落やチューブトラブルなどの危険予防のために、抑制具を装着されている患者さんに対して、手を自由に使うことができないにも拘らず、テレビのリモコンを手元に置いた。」

「抑制は当たり前ではなく、常に必要性に疑問を持ち、正しい判断のもと、最少必要限度で適切に行われるようにします。また、患者の立場になって、なぜ患者がそのような行動を起こすのか常に考え、患者を理解した上で看護を考え、実践していきたいです。」